

ご案内  
沖縄戦の証言  
DVD  
絶賛発売中

# 私の沖縄戦体験から ふるげん さねよし 古堅 実吉

～ 目の前に戦(いくさ)がやってきた ～ 定価:2,200円(税込)送料別

## 風化させてはならない「戦争の記憶」を未来へ

### ■ 沖縄戦の真実を静かに語る

米軍上陸が迫る1945年3月の沖縄。ある日突然、学徒兵部隊「鉄血勤皇隊」に全校あげて召集された沖縄師範学校。当時、古堅さんは師範学校予科1年、わずか15歳だった。記憶の地を実際に訪れた映像を織り交ぜながら、多くの学友の命を奪った沖縄戦の真実を静かに語ります。



### ■ 命を削ってでも伝えたい

学友の死を語りながら言葉に詰まり、沈黙する古堅さん。南部への敗走時、おそらく死ぬまで頭から離れないであろう母子の悲惨な姿についても言葉をふり絞ります。そこには「命を削ってでも」伝えたいという、強い思いがありました。

### ■ 平和を求める人々へのエール

米軍占領下でも平和と民主主義を求めて「不屈」にたたかった瀬長亀次郎。その後継者として「基地の島・沖縄」選出の衆院議員として活躍した古堅さん。その「原体験」と証言は、戦の語り部の貴重な言葉であり、平和を求める人々への力強いエールです。

## (株)たびせん・つなぐからのご挨拶

今年後半、(株)たびせんは感染対策を講じた旅の実施への努力をつよめながら、コロナ禍で開拓した新しい「人と人をつなぐ」形をいっそうつよめます。3つのグッズで3つの応援です。

歴史問題で揺れ続ける日韓の交流と連帯、新基地とミサイル部隊増強に反対し平和の架け橋を目指す沖縄、そして原発ノー、再生可能エネルギーへの取り組みをいそぐ福島。3つの国と地域、取り組みを応援するため、みなさんと一緒に3つのグッズを広げていきましょう。このマガジンでは、各国と地域からの最新情報や各国と地域のグッズ紹介をまとめています。

人と人がつながる努力こそ困難を乗り越える力だと信じます。みなさんのお力添えを心から願います。

(株)たびせん・つなぐ代表取締役 大西 健一



大西 健一



成島 美代子



前田 和則



中嶋 千尋



李胤守(イ・ユンス)

(株)たびせん・つなぐ

〒110-0005東京都台東区上野3丁目16-2 天翔上野末広町ビル312号室  
TEL: 03-5577-6300 FAX: 03-5577-6310  
メール: info@tabisen-tsunagu.com Web: https://tabisen-tsunagu.com



キリトリ

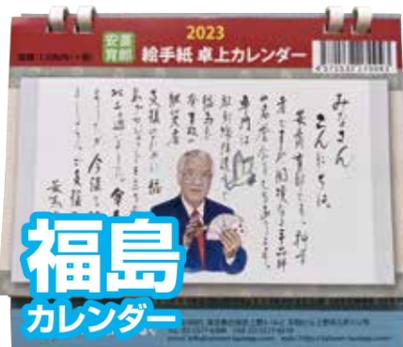
注文票 (電話、ファックス、メールにてお送りください) QRコードからもご注文いただけます▶

沖縄カレンダー	部	福島カレンダー	部	QRコード		
日韓DVD	枚	日韓ダウンロード版	<input type="checkbox"/> 一般 <input type="checkbox"/> 学生			
沖縄証言DVD	枚					
募 金	<input type="checkbox"/> 日韓	円	<input type="checkbox"/> 沖縄	円	<input type="checkbox"/> 福島	円
お名前(ふりがな)				電話番号		
住 所	〒					
メールアドレス						
支払方法	<input type="checkbox"/> 振 込 <input type="checkbox"/> クレジットカード					

料金後納  
ゆうメール

たびせん・つなぐマガジン  
**tsu·na·gu**

## 3つのグッズで3つの応援



## 「人と人をつなぐ」努力こそ困難を乗り越える力

日韓・沖縄・福島応援プロジェクトにぜひお力をお貸しください

### 特 集 記 事



韓国

徴用工問題など韓国のいま  
民族問題研究所 金英丸(キム・ヨンファン)さん  
日本軍「慰安婦」歴史館 矢島幸さん



沖縄

基地のある所に戦争がやってくる  
辺野古抗議船船長 金井創さん



福島

食料・エネルギー併存の新しい農業をめざして  
特定活動法人野馬土代表理事 三浦広志さん



# 被害者の人権を踏みにじる 「日韓関係破綻」論に抗して



7月21日「屈辱的対日外交糾弾」市民社会団体立場発表記者会見  
写真提供：韓日歴史正義平和行動（準）

「現金化は日韓関係破綻を意味する」という言説は日本にも韓国にも、そして両国の市民社会にも存在しますが、意味がわかりません。そもそも「破綻」とは何なのでしょう？ロシアとウクライナのような状態ですか？現金化が実行されたら自衛隊が独島に上陸したりソウルをミサイル攻撃する可能性があるかと本気で思っている人がいるのでしょうか？逆に、韓国大使が日本の首相に面会もできない現状は友好国の通常の関係から見ればすでに「破綻」しているとも言えます。結局「破綻…」の言説は「これ以上やると大変なことになるぞ」と被害者を脅して、「もういい加減にあきらめろ」と言っているに過ぎないのです。

皆さん、ご無沙汰しております。ソウルの民族問題研究所・植民地歴史博物館で活動している金英丸（キム・ヨンファン）です。「たびせん」を通じて日本から多くの方が植民地歴史博物館を訪ねて下さいましたが、残念ながらコロナのため皆さんが韓国にいらっしゃることができなくなり、もう2年半が過ぎました。私自身も活動のために毎年10回あまり日本に行きましたが、コロナ事態以降には日本へ行けなくなりました。何より早い内に韓国や日本で東アジアの平和を願う皆さんとお会いすることを切実に願っています。

## 植民地主義の克服は 世界史的な流れ

私が冒頭で紹介したのは、日本で長く訴訟闘争を通じて韓国の強制動員被害者、日本軍「慰安婦」被害者な

どの権利回復のために取り組んでこられた山本晴太弁護士が韓国のハンギョレ新聞のインタビューで語ったことです。強制動員被害者が日本製鉄、三菱重工業などを対象に2018年韓国大法院で勝ち取った判決の履行をめぐる現金化が執行されれば日韓関係が破綻するだろうという話が、最近韓国と日本のマスコミであふれています。

2018年の大法院判決は、強制動員被害者が20年以上に渡り日本と韓国の法廷でたたかい続けた末に勝ち取った歴史的な勝利です。日本の朝鮮に対する植民地支配が不法であること、侵略戦争の遂行に直結する強制動員・強制労働が反人道的な不法行為であるということを示した世界史的な判決です。この判決は韓国の裁判所で下された判決ですが、日本での訴訟闘争がなかったら決して勝ち取ることができなかつ



2017年8月12日龍山駅に建てられた「強制動員労働者像」

たので、東アジアの平和を願う日本、在日、韓国市民の粘り強い連帯闘争が共に成し遂げた歴史的勝利です。また、この判決は日本の朝鮮に対する植民地支配の不法性を明確にしたことから植民地主義の克服という世界史的な流れにも符合するものであり、国際人権法と国際人道法の成果を反映した記念碑的な判決です。

しかし日本政府や日本製鉄、三菱重工業、不二越など、加害企業は、責任を認めて判決を履行するどころか、判決以降は一切の対話を拒否し続けています。日本製鉄訴訟を支援する私も弁護団とともに東京の日本製鉄、三菱重工業、不二越の本社を訪れ、問題の解決のための対話を申し入れたことがあります。しかし、被害者側の私たちに対する加害企業の対応は門前払いでした。責任ある方は誰も私たちと会ってくれませんでした。被害者側の弁護団、支援団は3回も加害企業を訪れましたが、門前払いの対応は変わりませんでした。ある時には右翼の脅しまで受

けたこともあります。

## 歴史の真実に向き合う 人々との出会いこそ

「国際法違反だ」という一言だけを繰り返し、韓国の司法主権を無視している日本政府の圧力に屈した加害企業が対話に全く応じない以上、被害者側は正当な権利行使として判決の執行手続きを進めるしかありませんでした。しかし、日本政府は執行手続きの書類送達を意図的に遅らせたり、拒否したりして、すべての手続きを公示送達を通して進めなければなりません。2018年に判決が下されてから4年に近い時間が過ぎまして、いま三菱重工業に対する判決執行の最終段階の現金化が目前まで迫ってきました。

いわゆる「日韓関係の破綻」を危惧する人々に問いたいです。日本政府や加害企業の謝罪と賠償を求めて、人権回復のために一生をかけてたたかってこられた強制動員被害者の人権より大切な日韓関係、「国益」

というのは、誰のためのものですか？

今回、たびせんが「植民地歴史博物館」と「ナムヌの家」を紹介するために制作した動画のタイトルは「日韓'平和をつなぐ歴史紀行」です。強制動員被害者の人権を踏みにじる、飾りだけの日韓関係は、真の平和をつくることができません。歴史の真実と向き合う人々の出会いこそが、平和な日韓関係を築くことができることを、私は皆さんとの出会いを通して実感してきました。

東アジアの平和を願う皆さん、植民地歴史博物館でお待ちしております！



金英丸（キム・ヨンファン）  
民族問題研究所・植民地歴史博物館  
対外協力室長

DVD  
ダウンロード版  
絶賛発売中

# 「日韓」平和をつなぐ歴史紀行

## 植民地歴史博物館とナヌムの家

—日本人スタッフによる解説と被害者の声—



### 植民地歴史博物館

2018年8月29日、韓国ソウルの龍山に開館した韓日市民の手による博物館。民間の研究機関である民族問題研究所(1991年設立)が植民地主義克服のために取り組んできた資料収集、調査研究、展示、日韓市民交流・連帯などの活動を土台としています。多数の実物資料や体験者の証言等から「わたし」にとって日本の朝鮮侵略・植民地支配とは何かを考える展示、人権・平和・未来のための活動を行っています。

### ナヌムの家 日本軍「慰安婦」歴史館

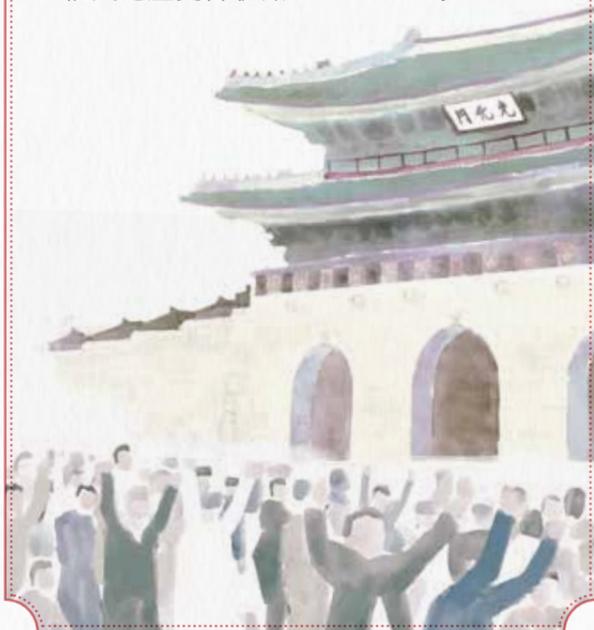
“ナヌム”とは“わかちあい”という意味。アジア・太平洋戦争期に日本軍の性奴隷として強制動員された被害女性のためのシェルターとして1992年にスタート、今も生存者たちが暮らしています。証言や歴史資料・絵画等の展示を通して日本軍「慰安所」制度の歴史を後世に伝えるための日本軍「慰安婦」歴史館も併設されています。

### 販売価格

- DVD 2,200円(※送料別)
  - ダウンロード版 一般 1,500円 学生 1,000円
- ※表示価格はすべて税込み価格です。

### 「日韓」平和をつなぐ 歴史紀行

植民地歴史博物館とナヌムの家



「日韓」の様々な問題、  
あなたのなぜ？を  
一緒に考える動画です。

### チャプター

- |                                |   |
|--------------------------------|---|
| ◆植民地歴史博物館                      | ◆ナヌムの家  |
| 1. 植民地歴史博物館 紹介<br>韓日市民の手による博物館 | 8. ナヌムの家 紹介<br>今も息づく歴史空間                          |
| 2. 展示解説(1)<br>日本による朝鮮の植民地化     | 9. 日本軍「慰安婦」歴史館Ⅰ<br>日本軍「慰安所」制度とその歴史                |
| 3. 展示解説(2)<br>植民地支配と朝鮮独立運動     | 10. 日本軍「慰安婦」歴史館Ⅱ<br>彼女たちが残したもの<br>—遺品と絵画—         |
| 4. 展示解説(3)<br>戦時下の朝鮮と人びとの暮らし   | 11. 証言<br>彼女たちの声に耳を傾けてみる                          |
| 5. 強制動員被害者 証言<br>わたしが歴史の証人     | 12. Peace Road<br>—歴史と人権ワークショップ—<br>共に歴史と向き合う国際交流 |
| 6. 展示解説(4)<br>「親日清算」の歴史的経緯     |   |
| 7. 活動紹介<br>日韓市民交流・連帯のチカラ       |   |

●企画/制作/著作権者 植民地歴史博物館 ナヌムの家 植民地歴史博物館と日本をつなぐ会 (株)たびせん・つなぐ 「隣人」工房  
●映像編集 民族問題研究所  
●発売元 (株)たびせん・つなぐ ☎03-5577-6300 <https://tabisen-tsunagu.com>

## 一人ひとりが歴史と向き合う行為を 通過点にして

日本軍「慰安婦」歴史館  
矢嶋 幸



朝鮮人徴用工や日本軍「慰安所」制度等の歴史をめぐる日韓関係の悪化が声高に日本で語られるようになってから、果たしてどれだけ多くの時間が過ぎ去ったことでしょうか。残念なことにこの間にも被害の認定と尊厳の回復を求める生存者の多くがこの世を去りました。しかしながら敵愾心を煽るかのようなメディアリポートやインターネット上の扇動的な情報にあふれた環境と連動し、関係悪化をさげすぶ声のほとんどがその原因を韓国の側に見出そうとするものようです。“そもそも”の話になりますが、加害性が問われる歴史の細部を私たち自身一体どれだけ知っているのだろうか、という疑問も湧いてきます。たとえしんどさが伴うとしても一人ひとりが静かに歴史と向き合う行為は、日韓関係の未来像を描いていくうえでも欠かせない通過点なのだと思います。その行為の反復と成果の積み重ねが、敗戦までの政治と今日も続く政治の悪しき連続性を断ち切ることにやがてはつながっていくのではないのでしょうか。



植民地歴史博物館での日韓連帯の取り組み



日本軍「慰安所」制度生存者の  
パク・オクソンさん



「奪われた純情」  
カン・ドッキョンさん



1930年代末から広範な地域に数多く強制  
動員された朝鮮の学生、青年、女性たち



コロナ禍という厳しい環境の中、日韓が協力し、素晴らしい動画を完成させたことに拍手です。日韓の歴史問題の核心ともいえる「日本植民地時代」の加害と被害の歴史をわかりやすい説明で勉強できて、動画を見ること自体がとても楽しいし、優雅な時間でした。韓国人でもこういう植民地時代の歴史はよくわからないまま感情的になる場合が多いです。

当時の写真、書籍、服、鞆など実際のものをみながら納得する、理解する歴史は絶対忘れないし、否定もできません。お互いの歴史にちゃんと向き合っ、前に進められる原動力になってほしいです。

韓国ソウル  
現地社員  
李胤守  
(イ・ユンス)

韓国にある植民地歴史博物館と日本軍「慰安婦」歴史館の豊富な資料が紹介され、日本にいながらもまるで実際に見学したような充実した内容でした。印象に残ったのは、両館とも日韓市民の連帯によって作られてきたということでした。日本では歴史教育が後退していくなかで、近年歴史修正主義者の声が大きくなっていくことに危機感を覚えます。さらに、在日コリアンなどへのヘイトをみるたびに歴史を学ぶことの重要性を感じざるを得ません。

日韓の市民によるこうした歴史教育を通して、お互いを理解できる土壌をつくっていきたくと思いました。

東京23歳  
女性  
大学院生

# 基地のある所に戦争がやってくる

## 軍事要塞化の進む南西諸島のいま

か ない ほ じ め  
**金井 創**  
 日本基督教団佐敷教会牧師  
 辺野古抗議船船長



### 連動する自衛隊と米軍の一体化

いま奄美大島から与那国島にいたる南西諸島において、自衛隊ミサイル基地建設が急ピッチで進められています。沖縄県内では一足早く建設された与那国島の警備隊基地のほかに宮古島、石垣島でミサイル基地が造られつつあります。沖縄は在日米軍基地が集中し、それだけでも様々な問題が起こっているのに、加えて自衛隊基地まで新設されます。ますます軍事要塞化されていくようで不安が高まります。

このような自衛隊基地増強と、自衛隊が米軍と一体化していく事態は連動しています。2018年には陸上自衛隊の中に「水陸機動団」という部隊が創設されました。これは自衛隊版海兵隊ともいべき存在で、「敵地」に乗り込んでいって戦闘する部隊です。この部隊は現在米海兵隊が使用しているのと同じ水陸両用装甲車 AAV7 をすでに 53 輛購入して配備しています。そして米軍と一体になって離島奪還訓練も行なっています。さらにはいま埋め立てが進んでいる辺野古の海兵隊基地キャンプ・シュワブにこの水陸機動団の一部隊が常駐するという計画まで明らかになりました。今までも米軍の訓練地で自衛隊が米軍と共同訓練をするのは日常的になされていますが、米軍基地に自衛隊が常駐するというのは前例のないことです。

### 島々が戦場に——軍隊は住民を守らない

離島奪還訓練にしても政府の説明は尖閣諸島を想定しているなどと説明しますが、実際は宮古島、石垣島に「敵」が上陸占領した場合、それをどのような作戦で奪い返すかが訓練の目的です。その際に、それぞれの島々に暮らす約 5 万人ずつの住民の避難をどうするかなどは任務にないことまで明らかになっています。住民が住む島々がそっくり戦場になってしまうのです。住民を巻き込んで地上戦が繰り返された沖縄戦の再来です。

沖縄戦の教訓は「基地のある所に戦争がやってくる」、「戦争になったら軍隊は住民を守らない」ということでした。それはもう忘れられてしまったのでしょうか。基地があれば守ってもらえて安心どころか、戦争を呼び込んでしまうのが軍事基地です。それがいま着々と宮古島・石垣島に造られていくのですから不安でなりません。

宮古島では弾薬庫建設が進む保良(ぼら)地区での反対が大きいのです。弾薬庫から最も近い住宅まで 200m しか離れていないのですから当然です。

また石垣島の自衛隊基地建設現場の周辺 4 地域も公民館単位で反対を表明しています。ここは特に戦後、沖縄本島や台湾からも集団で入植し開拓してきた地域です。それまでマラリア有病地帯としてめったに人も住まない場所が、戦後の開拓団の苦勞によってジャン



▲うるま市平敷屋の米海軍ホワイトビーチ。ここに隣接して自衛隊勝連分屯地がある。



◀建設が進む宮古島・保良(ぼら)弾薬庫



◀宮古島・千代田基地



グルを切り開き豊かな農地に変えていった地域です。そこに水質汚染などをもたらす自衛隊基地がつくられるというのですから、反対するのも当然だと思います。

沖縄本島でもうるま市勝連にミサイル部隊配備、南西諸島全体の司令部設置が計画されており、那覇空港にある航空自衛隊はその規模が倍増されました。

### 核弾頭搭載可能な中距離ミサイルも

恐ろしいのはこうした基地に配備されるのが自衛隊のミサイルだけではないということです。アメリカが開発した新型の中距離ミサイルが 2023 年から配備され始める計画もあります。これは射程が 500km~5,000km というもので中国本土まで届いてしまいます。しかも簡単に核弾頭に変更できるということです。沖縄には 1960 年代、中国本土に照準を定めていたメース B という中距離核ミサイルが配備され、1962 年のキューバ危機に際しては発射寸前まで行っていました。その恐怖が再び襲ってきます。

今までは沖縄に集中する米軍基地は「沖縄問題」と本土に住む多くの人は思ってきたことでしょう、本当は日本の問題なのですが、ところが、アメリカが配備しよう

としている新型中距離ミサイルは沖縄だけで済みません。日本全土、できるだけ多くの場所に置きたいと思っているらしいです。これは日本全体の問題になっていきます。どこにいても核戦争の恐怖から逃れられなくなります。

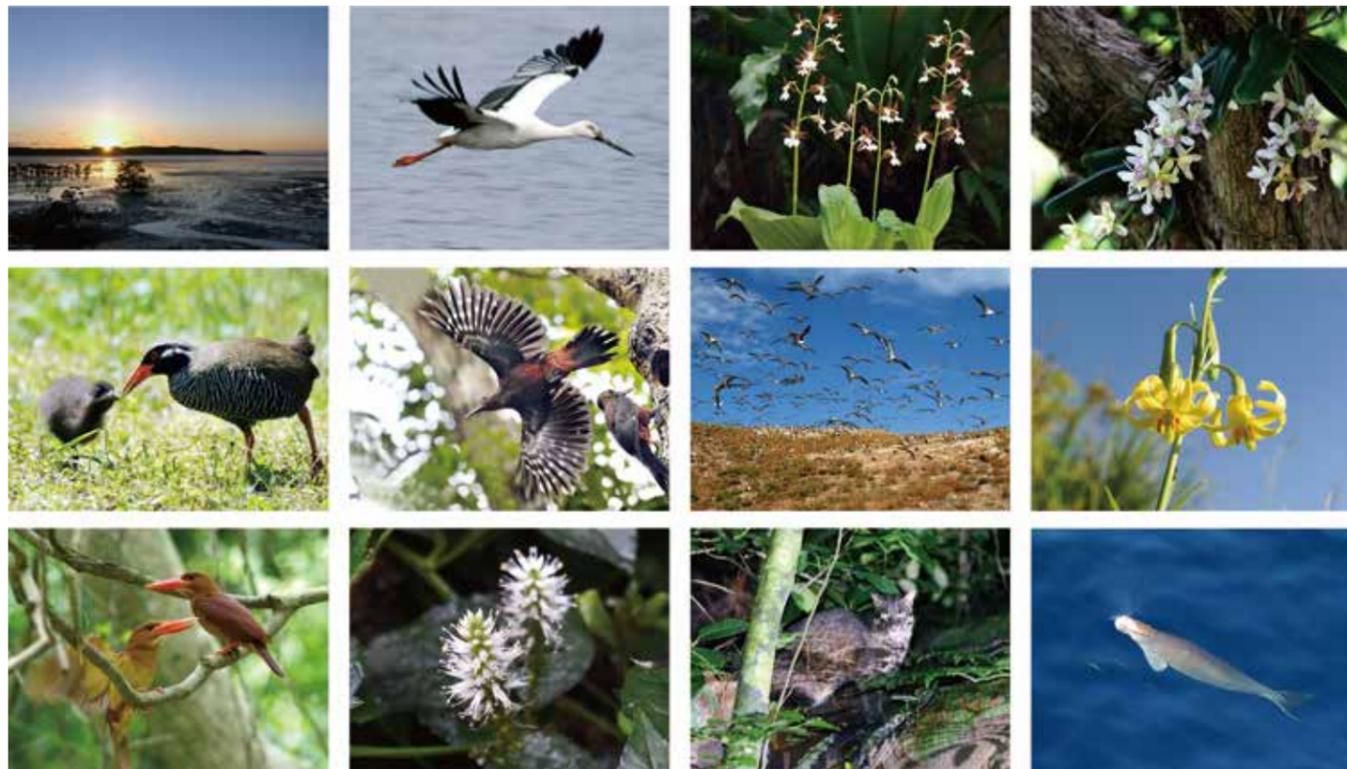
6月21~23日、オーストリアのウィーンで核兵器禁止条約の第1回締約国会議が開かれました。この条約には世界の65か国が批准し、85か国が署名しています。ドイツやオランダなど日本と同じように米国の「核の傘」のもとにある国会議にはオブザーバー参加をしています。ところが世界で唯一の被爆国である日本はこの条約にも賛成せず、会議にオブザーバー参加すらしませんでした。核が核を抑止できるという「核抑止論」はもはや成り立たないという世界のすう勢に対して、日本は米国との核共有、敵基地へのミサイル先制攻撃など政府内で声が出てきて、世界的な核廃絶の動きに真っ向から対立する姿勢を示しています。日本は世界の先頭に立って核廃絶に向けてリーダーシップを発揮すべきだと思うのですが、現実はその真逆であって残念でなりません。もはや政府に任せてはおけません。市民が中心になって核廃絶に向けて声を上げ、世界の人々と手をつなぎあっていかねばならないときだと思います。



石垣島・自衛隊基地建設地  
 平得大俣地区「ジュマールゴルフ場」

# 2023年 沖縄支援カレンダー

毎年、たびせんのカレンダーを楽しみにお待ちいただいている方も、今回、初めて知った方も、久しぶりに買ってみようかなと思われた方も…。2023年もとても素敵なカレンダーが出来上がりました！毎月、沖縄の貴重な動植物の写真をながめて、沖縄に思いを寄せていただけたらうれしいです。



定価:1,100円(税込) 送料別途

※カレンダーの売上金の一部は辺野古や高江などの沖縄支援にあてられます。また、沖縄支援募金(1口1,000円)も併せて募ります。

恒久平和を次世代へつなぐ  
 沖縄が復帰した1972年5月15日から半世紀が経過した。当時の復帰式典で屋良朝苗県知事は「必ずしも私どもの切なる願望が入れられたとは言えない(中略)。私どもにとってこれからもなおきびしさは続き、新しい困難に直面するかもしれない」と語った。現在も基地負担と米軍人の犯罪は絶えない。さらに絶滅危惧種シユゴンが生息する自然豊かな海で日米両政府が強行する辺野古新基地建設。ロシアのウクライナ侵攻でも証明されたように戦争で犠牲になるのは一般市民である。民意は、戦争犯罪につながる基地のない平和な島と、自然豊かな住みよい島を次世代へつなぐことを求めている。

山城博明(元琉球新報カメラマン)

## 福島応援プロジェクト

# 2023 安齋育郎絵手紙 卓上カレンダー



安齋育郎先生(立命館大名誉教授・立命館国際平和ミュージアム名誉館長)が12名の友人・知人に宛てた絵手紙を、12か月の卓上カレンダーにしました。

震災・原発事故の福島で復興に頑張る人びとや、世界の平和と核兵器廃絶のために活躍する人びとなど、安齋先生の心温まる文章とほのぼのとした絵とも相まって、これらの人々を大きく励まし、それを見る私たちにもまた、勇気と力を与えてくれる絵手紙卓上カレンダーです。



定価1,100円 (税込)送料別途

机の上に置くとちょうど良いサイズ!  
 2023年のカレンダーだけでなく、  
 絵手紙ページを飾ればずっと使える!



▲原発問題住民運動全国連絡センター代表委員 伊東達也さんにあてた絵手紙

福島の古刹・宝鏡寺の早川篤雄住職にあてた絵手紙▼



環境に配慮してペーパーリングを使用していますので、紙とともに土に還ります。

# 3・11東日本大震災・原発事故から11年

## 食料・エネルギー併存の新しい農業めざして



綿花栽培のための畑づくり

### 復興へ、 若手農業者の育成

東日本大震災・原発事故前の私は、南相馬市小高区井田川で農業を営ん



ブルーベリーパークびぼば

でいましたが、農地の全てが津波に飲み込まれ、2012年7月頃までの約1年4か月は、農地は水の底に沈んでいました。原発事故による強制避難によって何も回復の手立てをとることもできないまま数年が経過し、その間は相馬市・新地町にNPO法人を立ち上げ、避難先の復興活動に携わっていました。2012年からはコメの全量全袋検査をはじめとする農産物の放射能測定をおこない、福島県全域で安心して農業が営めるよ

う、農作物に原発由来の放射性物質が取り込まれないような対策の確立とその実践とともに、農地の土壌放射能データを取り、将来予測をおこないました。

また、2011年から始めた太陽光発電事業を浜通り北部地域の広範囲に拡大し、売電収入で減少した農業所得を補填し、農家の生産意欲の維持に努めました。避難元である故郷・南相馬市小高区については、数年はあきらめていましたが、未来に向けた準備を始めようと、2014年に荒れ果てた農地に太陽光発電所をいくつ



か設置し、それを財源として農業の担い手を育成、農地が復旧するまでの期間の人件費の確保を目指しました。計画は順調に進み、太陽光発電所周辺にいくつかの農業法人が出来、若手の農業者が育成されつつあります。

### ブルーベリーパーク びぼば

2016年7月に避難指示が解除された小高区井田川は、それ以降に農地や営農の復興モデルを構想し、180人以上の地権者の皆さんの合意を得ながら農地を作り替える計画を作りました。国からの補助金の他に、農地の真ん中に50ha（東京ディズニーランドと同面積）のメガソーラーの建設に同意し、その売電益の中から農地・農業の復興に資するための資金を提供していただいています。

2019年には、地上3mの高さで太陽光発電をし、その下でブルーベリーを栽培する営農型太陽光発電（ソーラーシェアリング）を始めました。太陽光発電は、土砂崩れの心配の少ない農地に相性がよく、復興する農地にこそ未来を見据えた農業・食料とエネルギーを併存させたいと考えたからです。

ブルーベリーは3年目の今年、ようやく収穫を開始することができました。人がいなくなったこの地に、できるだけ人に来ていただけるように、摘み取り体験の出来る『ブルーベリーパークびぼば』を開設しまし



「びぼば」プレオープンに協力する学生たち

た。開園に当たっては、小高区に移住してきたデザイナーさんや福島大学の学生さんたちの協力を得ました。今年はまだ試行錯誤の繰り返しですが、来年は周りに施設も整備して、バージョンアップしていきたいと思っています。

### 毎年広がる農地、 新しい未来

農地の基盤整備工事がブルーベリー園の周辺から開始されました。2月から始まり、6月に35aの畑が完成、オーガニックで綿花と大豆を栽培しています。7月末には一枚の水田（1.6ha）が出来上がりました。9月にはレンゲを播いて花を楽しんだ後、来年は13年ぶりの田植えをしたいと思っています。

これから農地が毎年広がっていきます。工事が完了すると110haの農地が再生し、そのうちの60ha以上の農業経営をおこないます。ロボットトラクター・

ドローンなどの最先端技術の農機具を使うスマート農業をはじめ、原発事故以前のように有機農業も拡大予定です。

私の生まれ育った井田川集落は、避難先から帰ってくる人は、今のところ皆無です。誰もいなくなった『ムラ』を新しい『農地・農業』を通じて魅力のある場所に変えていこうと思っています。学生の皆さんや新たに移住してくる人たちとの企画も進んでおり、彼らと新しい未来を作りたいと思っています。人がいなくなった農地で、少ない人手でもできる農業から始めなければなりません。この地域に適した、楽しい農業を、今、始めます。



みうらひろし  
三浦 広志  
特定活動法人野馬土  
代表理事

